

平成30年度指定管理運営業務評価票

施設名称：大阪府立門真スポーツセンター		指定管理者：OGMPなみはやドーム共同事業体		指定期間：平成27年4月1日～平成32年3月31日		所管課：大阪府教育庁教育振興室保健体育課					
評価項目		評価基準（内容）		指定管理者の自己評価		評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言		
						S～C		S～C			
平等利用が確保されるよう適切な管理を行なうための 方策	(1)施設の設置目的及び管理運営方針	①施設の設置目的に沿った運営		設置目的の「体育・スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、文化的な集会及び催し物の場を提供」を果たせるよう施設運営を行った。また、安心安全の確保のため緊急事態訓練や施設設備整備に取り組んだ。  (評価点：3点)		A	門真スポーツセンター条例に記載のある設置目的に従って、「体育・スポーツ及びレクリエーションの新興を図り、併せて文化的な集会及び催物の場」を適正に提供している。 メインアリーナにおいては、水泳の全国大会、学校の運動会、またアイスショーの利用等メインアリーナの転換に応じた利用がなされている。  (評価点：3点)		A		
		②提案した管理運営方針に沿った管理		1 施設を活用するため各種スポーツ教室及び文化教室を実施 スポーツ教室・講座数:23 文化教室・講座数:4 2 周辺行政と連携し、プール補助券販売を行う 3 職員の一般及び専門知識向上のための各種研修を実施 9月にはLGBT対応研修を初めて行った。  (評価点：3点)			1施設の特性を活かした各種スポーツ教室や文化教室を実施し、府民のスポーツ振興に貢献している。 2プール補助券の販売においては売上が減少しているため、周辺3市と引き続き連携が取れるよう努めること。 3人件研修をはじめサービス・マナー研修、個人情報保護に関する研修、防災訓練の実施を計画的に実施している。  (評価点：2点)			プール補助券を指定管理者と大阪府で協力し、近隣市町村やその他の団体（スポーツクラブ等）にも売り込んでいくこと。また、プールの活性化という同じ観点から、水泳競技のニーズも増やしていくようにすること。	
		③社会貢献活動、環境活動、法令遵守の取組み		1 「アクティブシニアパートナー」への参加 4～9月利用者数 3名 2 周辺中学校からの職場体験受入 大阪市立茨田中学校（6月7、8日） 大東市立住道中学校（9月5、6日） 3 自主内部監査の実施 9月10日に実施 指摘事項を即座に改善 1. プールガード質向上の啓発活動 実施サイン漏れ 2. 共有フォルダ内個人情報パスワード漏れ 3. 新規パート導入教育記録無し 4. 入金日報、支配人押印漏れ 5. 返金領収証記入ルールミス 4 プライバシーマークを取得（代表企業オーグースポーツ） 個人情報の取り扱い強化 5 エネルギー管理基準の作成と推進委員会の実施。 共同事業体内定例会議にて、事業体厚生各社で情報共有化を図り、省エネ意識向上に繋げた。  (評価点：3点)			1 シニアの方々が豊かな人生を送り、積極的に社会参加される「第二の活躍」を応援する府福祉部が事業展開しているアクティブシニアのパートナー施設として登録し、毎月15日にシニアへの利用料の割引を実施している。 2 周辺中学校2校の職場体験を受入れ、メインアリーナの転換作業等の体験学習に協力している。 3、4 法令遵守の取組みとして各種コンプライアンス研修や自主内部監査を実施するとともに、個人情報の取扱いへの団体としての意識向上に努めている。 5 環境活動として、事業体構成団体が情報の共有化とともに、省エネ意識の向上を図っている。  (評価点：3点)				

■◎-2プール補助券利用状況(平成30年度上期実績)

	利用者数(人)	前年差(人)
門真市	7,217	▲ 576
寝屋川市	2,460	▲ 54
大東市	3,645	▲ 59

■◎-2プール補助券販売枚数(平成30年度上期実績)

	販売枚数	前年差(枚)
門真市	7,400	▲ 3,600
寝屋川市	0	▲ 15,000
大東市	3,000	▲ 1,000

	<p>(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果</p>	<p>① 公平なサービス提供、対応状況</p> <p>② 高齢者、障がい者等に対する配慮</p>	<p>1 公平なサービスを提供するため、代表企業オージースポーツ経営理念、行動基準を毎日の朝礼で唱和し、職員の意識を一定に保ち、その理念、行動基準に沿って全ての利用者に対応している。利用者への接客研修など13項目の研修を計画及び実施し社員の接客レベルアップを図った。</p> <p>2 プールにおいて無料でどなたにでも参加できる「ワンポイントレッスン」を実施した (評価点：3点)</p> <p>1 高齢者利用補助 府政策「アクティブシニアパートナー」として、利用料補助、健康運動指導士資格者配置(8名)</p> <p>2 障がい者利用補助 障がい者、介助者の利用料・駐車料減免、障がい者スポーツ指導資格者配置(2名)、貸し出し用車椅子配置(障がい者利用者数(上期合計)) トレーニングルーム 6,109名(前年比94%) プール 3,768名(前年比98.2%)</p> <p>3 セクシャルマイノリティ利用者への配慮を考えるため、従業員向けLGBT研修会を行った。</p> <p>4 多目的トイレには、そのトイレの特性に応じて車椅子、内部疾患、ジェンダーフリー等のマークを掲示し、ご利用いただきやすいようにした。 (評価点：3点)</p>	<p>A</p> <p>1 接客研修を実施し、職員の対応力の向上に努めており、本取組みが施設を利用する方々の満足度を向上させる一因となっている。また、コンプライアンス研修を実施することで公の施設に必要な公平性を確保することに繋がっている。</p> <p>2 だれでも参加可能なワンポイントレッスンの実施により、老若男女を問わず水泳の能力向上を図ることが可能であるとともに、無料であることから利用者が気軽にステップアップ等のコツを学べる制度として非常に有効である。 (評価点:3点)</p> <p>1 府福祉部が事業展開しているアクティブシニアのパートナー施設として登録しているとともに、健康運動指導士資格者を配置し、高齢者に対する配慮を実践している。 平成29年度健康運動指導士資格者数 8名 平成30年度同資格者数 8名</p> <p>2 貸し出し用車椅子の配置、減免を実施するとともに、障がい者スポーツ資格者を2名配置するなど障がい者に対する配慮を実践している。</p> <p>3 性的マイノリティ利用者への配慮できるよう、啓発を行っている。</p> <p>4 施設のバリアフリー情報を視覚的に表示させることで、利用者への配慮に努めている。 (評価点:3点)</p>	<p>A</p>
	<p>(3) 利用者の増加を図るための具体的手法・効果</p>	<p>① 利用者増を目指したにぎわいづくり方策の取り組み</p>	<p>1 駐車料金改定(※)を実施(平成29年7月～)しており、行事案内やホームページでの露出強化、専用利用主催者さまに依頼して大会要項などに駐車料金値下げの記載をお願いしたり、館内アナウンスなどの活動により認知度が上がり利用台数が前年比で大きく増加。 (※) 1時間380円→30分150円、当日最大1,500円を新設 【上期実績】 台数29,066台(前年比129%)、売上16,463千円(前年比135%)</p> <p>2 一般利用者駐車場料金1時間無料サービス開始(平成29年8月～) 利用者に非常に好評で、上期では5,070件の利用があった。</p> <p>3 毎年恒例「なみはやスイムフェスティバル」の開催 8/19開催 500名参加(前年比120%)</p> <p>4 プール一般利用増加を目的に「プールキッズデイ」を開催し親子連れの利用者拡大を図った。(4/21、6/23、7/14、9/22に開催)</p> <p>5 男性にも楽しんでもらえる新プログラム「BUKATSU」の導入 男性利用者のスタジオへの誘引に役立った。 【BUKATSU上期参加者数】合計49回開催 男性111名、女性99名 合計210名</p> <p>6 専用利用の利用率向上のため、空枠の営業活動を行った。 過去利用団体へアプローチを行ったり、夜間空枠については主に学校の吹奏楽部にターゲットを絞り、施設利用促進を行った (評価点：4点)</p>	<p>S</p> <p>1 平成29年7月に、駐車料金において料金体系を変更した後も、利用者への周知を積極的に行い、着実に利用台数、売り上げを増加させている。</p> <p>2 昨年度8月からトレーニングルーム、プール等を利用された方への駐車場1時間無料サービスを継続し、利用者満足度を高めている。</p> <p>3～4 なみはやスイムフェスティバル、「プールキッズデイ」の開催やトレーニングルーム・プールでのサービスプログラムを実施するにあたり、指定管理者が別途経営している店舗における館内掲示を行うなどをし、前年の参加者数を上回っている。</p> <p>5 新たな利用者層を呼び込むための取り組みを行い、着実に実績を上げている。</p> <p>6 過去の利用実績から、効果的に専用利用の誘致活動を行っている。 (評価点:4点)</p>	<p>S</p>

I 提案  
の履行  
状況に  
関する  
項目

②年間の広告・広報計画等の情報発信の取組み  
【指標】利用者数  
平成29年度実績：541,624人  
平成30年度目標：512,282人  
9月末現在実績：240,488人

- 1 トレーニングルーム、プールの一般利用者増の取組み  
近隣に多くの24時間フィットネスが新設。若年層の  
トレーニングルーム利用者減歯止めのため以下の活動を行った。
  - ・門真南駅内ポスターの更新
  - ・駅利用者及び近隣へのティッシュ配布
- 2 施設広報として、マスメディアからの取材、撮影協力を積極的に行った
- 3 近隣施設、自治体へ「月間行事案内」毎月発行
- 4 地下鉄門真南駅掲示板に使用施設情報を発信し、乗降客へのPRを行った
- 5 「新聞折込チラシ」7月1日 20,000部
- 6 会議室検索サイトへの継続掲載実施
- 7 門真スポーツセンター一般利用者さまの中で、スポーツの分野で活躍するお客さまを取り上げホームページ内で紹介する。門真スポーツセンターへの帰属意識を高めると共に、スポーツの楽しさや遣り甲斐を共有できるようにする。

(評価点：3点)

1～6 マスメディアからの取材や撮影協力、近隣施設や自治体への月刊行事案内の配布、駅掲示板の掲示、新聞の折込チラシ等、Webを使った広報活動を着実に展開している。特に、門真南駅周辺における広報活動を強化しており、地域の利用者の呼び込みに積極的に取り組んでいる。  
7 利用者の活躍をホームページ上で紹介する取り組みを計画しており、利用者の帰属意識やモチベーションを高める働きかけを行っている。  
(評価点：3点)

施設の効用を最大限発揮するための方策	(4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果	①提案のあったサービス向上策の取組み	<p>1 業務推進委員会・設備連絡会にて、会議形式を変更し、懸案事項を活発に出しあえるよう工夫を行った。</p> <p>2 有資格者の配置を継続。 健康運動指導士8名、障がい者スポーツ指導員2名、体育施設管理士1名、介護予防運動指導員2名、NSCA認定CSCS1名</p> <p>(評価点：3点)</p>	A	<p>1 指定管理者グループ構成員が集う業務推進委員会・設備連絡会議等を定期的に開催し、各社連携をとり、利用者へのサービス向上に繋げている。</p> <p>2 各種有資格者を継続的に配置し、それぞれの資格に合わせたサービス等を展開し、利用者の満足度を満たすべく努力を続けている。</p> <p>(評価点:3点)</p>	A	
		②自主事業の取組み	<p>1 スポーツ教室、文化教室を継続実施</p> <p>2 自主事業収入プロポーザル額 ・物販 8,984千円 ・スポーツ教室収入 30,503千円 ・文化教室収入 7,286千円 ・施設広告収入 1,513千円 ・マンツーマントレーニング収入 804千円 ・大会イベントサポート事業 6,831千円</p> <p>3 スイミングスクール短期教室では、複数受講、兄弟・姉妹受講、友人紹介などを推進する取組を行った。</p> <p>(評価点：2点)</p>		<p>1~2 自主事業としてスポーツ教室及び文化教室を前年度に引き続き開催している。</p> <p>収入面においては、一部事業は好調であるものの、文化教室等計画に対しての見込みが大幅に下回っている事業もある。</p> <p>内容のスクラップ&amp;ビルドをする等により、より魅力的な自主事業を打ち出していくことを期待する。</p> <p>3 紹介制度を導入することにより、利用者の呼び込みおよび定着を図っている。</p> <p>(評価点:2点)</p>		
		③施設設備、機能の活用	<p>1 複数の競技大会、イベント等を同日実施し、複合施設機能を発揮した。</p> <p>2 プール可動床機能があることで、アーティスティックスイミング日本代表合宿の受け入れを行った。</p> <p>(評価点：3点)</p>		<p>1~2 施設の中心となるメインプール、メインアリーナ、メインリンク、サブアリーナ、サブプールの利用率は高い。</p> <p>特にメインプール、サブプールにおいては、可動床により、同時に複数の目的別利用が可能であり、施設機能を十分理解し活用している。</p> <p>(評価点:3点)</p>		
	(5) 施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度	①施設設備の効果的な維持管理	<p>施設・設備維持管理基本方針に則り、資産の長寿命化と機能維持につとめる 国際品質管理基準 (ISO9001) に基づく施設管理を完全実施。</p> <p>(評価点：3点)</p>	A	<p>施設修繕会議を定期的に開催し、施設の現状と問題点や課題等を共有し、効果的な維持管理の方策を実践している。</p> <p>プールで使用した水をトイレの排水用水に利用したり、夏場の空調機や電気量軽減のため、ブラインチラー(製氷機)を活用するなど、施設設備を効率的・効果的に活用している。</p> <p>(評価点:3点)</p>	A	
		②施設設備の安全管理	<p>設備の日常巡視点検、定期点検により正常な状態を把握し、不具合をできる限り早く察知し対処する。</p> <p>(評価点：3点)</p>		<p>日頃からのチェック体制を整備し、安全管理に向けた意識向上を図るとともに、不具合が発生した場合の情報共有機能や対処についての体制も整備されている。</p> <p>(評価点:3点)</p>		
		③緊急時の危機管理体制	<p>1 危機管理マニュアルに基づいた行動を心掛け、危機管理体制を共有している。</p> <p>2 年間通じ、定期的な消防訓練、緊急訓練を確実に実施し、緊急時対応の技術を維持する。</p> <p>3 地震・火災・水害等の緊急時は、関係機関と連携しながら利用者、職員の安全確保を図り、被害拡大を阻止できるようマニュアルの整備、訓練を実施する。</p> <p>4 マニュアル把握と危機対応行動が平準化ができた。</p> <p>(評価点：3点)</p>		<p>1~4 左記危機管理体制を整備しており、大阪府北部地震や台風の際には、迅速な緊急対応および適切な体制整備を行った。</p> <p>(評価点:3点)</p>		
	(6) 収入確保策の実施	①広告収入等の収入確保策の取組み	<p>これまで行ってきたホームページバナー広告、月間行事案内広告事業に加え館内壁面広告を実施</p> <p>バナー広告：2枠 38千円/月 月間行事案内広告事業：6枠 120千円/月 館内壁面広告：2社 20千円/月 H30年見通：2,031千円/年 (プロポーザル比88.3%)</p> <p>(評価点：2点)</p>	B	<p>従来から実施していた月間行事案内及びHPバナー広告への広告掲載がされており、収入確保策の取り組みがなされているが、計画を下回っており、引き続き広告収入確保の取り組みに期待したい。</p> <p>(評価点:2点)</p>	B	<p>広告収入確保 (メインアリーナ大型映像広告等) について、実施する価値があるかの検討も必要だが、地域の有力企業を訪問して、広告のお願いに行っているかどうか。マンパワーが足りないのであれば、広告代理店に任すのも1つの手として考えてはどうか。</p> <p>広告収入の確保が難しいようであれば、その他の収入確保策 (水泳競技会の誘致など) も模索してはどうか。</p>
		②提案どおり実施されているか。	<p>館内壁面広告：2社 20千円/月 メインアリーナ大型映像広告掲載実績無し</p> <p>(評価点：1点)</p>		<p>提案どおりの館内壁面広告は実施しているが、メインアリーナ大型映像広告掲載については実績がない状態である。</p> <p>新たな広告枠の確保に期待したい。</p> <p>(評価点:1点)</p>		

その他管理に際して必要な事項	(7)府施策との整合	①府、公益事業協力等の取組み	<p>1 「まいど子どもカード」利用料金割引実施（総額から100円割引）4月～9月まで10件利用</p> <p>2 「アクティブシニアパートナー」で利用料金割引実施（プール、トレーニングの一般利用500円に割引）</p> <p>3 府各部局からの啓発掲示物の掲示協力</p> <p>4 大阪府各部局関係を継続的に掲示物掲示を行っている</p> <p>5 大阪マラソンや、府催事の告知、訓練参加を行っている</p> <p>6 門真警察の防犯啓発ポスター、守口市門真市消防組合消防本部の防火啓発ポスターの掲示協力</p> <p>7 C-STEPへの継続加盟</p> <p>(評価点：3点)</p>	A	1～7 府福祉部の施策である「まいど子どもカード」や「アクティブシニアパートナー」、府民文化部の施策である「大阪マラソン」、政策企画部の施策である「大阪880万人訓練」、教育庁の施策である「子どもの体力づくりサポート事業」、門真警察署や消防組合等各分野種々の事業に積極的に協力している。	A	(評価点：3点)
		②行政の福祉化の取組み	<p>1 地域就労支援センター、母子支援センター等、各就労支援事業からの雇用活動実施。</p> <p>2 共同事業体各社雇用率 オージージョー2.2%、関電ファシリティーズ2.05%、パティネ3.13%</p> <p>3 平成30年度より、オーグスポーツにて東京パラリンピックを目指す障がい者1名を雇用。10月に実施のアジアパラリンピックの代表に選出された。</p> <p>(評価点：3点)</p>		1～3 C-STEPへの加入、知的障がい者の清掃現場就業等提案どおりの取組みがなされている。また、障がい者スポーツに取り組む方の支援も積極的に行っており、アジアパラリンピック代表選手も従業員から輩出している。		(評価点：3点)
		③ 市民・NPOとの協働の取組み	<p>なみはやスイミングフェスティバルを通じて、市民ボランティアが参画できる機会を提供した。</p> <p>(評価点：3点)</p>		市民との協働の取組み実績あり。		(評価点：3点)
		④環境問題への取組み	<p>1 メインプール期間終了後の排水を、雨水貯留槽へ移行し雑用水として使用した。</p> <p>2 老朽化した照明器具を順次LED化し、節電に努めた。</p> <p>3 外気温や利用者数に応じて、濾過機、空調などを間欠運転し節電に努めた。</p> <p>4 植栽への散水機の吐出時間を、季節や天候によりこまめにタイマー調節し節水に努めた。</p> <p>(評価点：3点)</p>		照明のLED化や気候・利用状況に応じた対応により、節電・節水に努めている。		(評価点：3点)
I 総括		7項目（28点満点）		A	7項目(28点満点)	A	

評価項目	評価基準(内容)	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言	
			S～C		S～C		
(1)利用者満足度調査等	①利用者満足度調査等の実施状況	<p>専用利用・・・利用希望調整時に実施</p> <p>個人利用・・・専用利用希望調査表と共に各利用団体様へ10月9日送付済み、12月末までに回収予定。</p> <p>(昨年実績：配布数876通、回収数73通、回収率8.3%)</p> <p>(評価点：3点)</p>	A	専用利用の団体及び個人の利用者に対して毎年アンケートを実施している。	A	(評価点：3点)	
	②調査結果のフィードバック (PDCA)	<p>アンケート結果は必ず集計し、結果を職員が共有して各エリア運営に反映する アンケート以外で直接的に寄せられた意見、要望も同様に職員内で共有し、緊急性、影響度を考慮して優先順位をつけて対処する。</p> <p>(評価点：3点)</p>		利用者からの意見、要望を集計し、各種改善に生かしている。大会関係者からの要望があった、昼食の手配をレストランと連携して実施するなど利用者満足度の向上に努めている。		(評価点：3点)	
(2)自主事業	<p>①さらなるサービス向上の取組み</p> <p>〔指標1〕自主事業参加者数</p> <p>〔指標1〕自主事業参加者数</p> <p>H29実績：4,117人、上半期実績：2,127人</p> <p>H30目標：4,300人、上半期実績：2,089人</p> <p>〔指標2〕自主事業収入状況</p> <p>H29実績：64,545千円、上半期実績：22,875千円</p> <p>H30目標：61,191千円、上半期実績：22,217千円</p>	<p>1 トレーニングジムにて更に専門性の高いメニューを提供する目的で、マンツーマントレーニングのプログラム増設。マンツーマントレーニング実施可能トレーナーを平成30年度は3名増員し、合計11名となった。</p> <p>2 教室参加者増加のため、認知活動を強化した。講師と連携し、体験会を随時実施。また、7月1日に新聞折込広告(20,000部)や、月間行事案内(4、5、8、9月での告知活動を強化した。</p> <p>3 夏休み短期水泳教室では、複数受講制を導入し、兄弟・姉妹参加や2期以上の申込を促進した。</p> <p>4 レストランと連携し、団体利用の昼食手配や食事を案内実施および催し物を開催。大会時の軽食の販売の斡旋や仲介を行うことで、団体利用者へのサービス向上に繋がった。</p> <p>(評価点：2点)</p>	A	1 トレーニングジムにおいて、障がい者を含むアスリート向けのマンツーマントレーニングを実施し、専門性の高いメニューを提供するなどさらなるサービス向上の取り組みを実施している。	A	2～3 体験教室、広報活動の強化、紹介制度の導入等新規利用者の獲得に積極的に努めているが、前年度の実績を下回っている。	(評価点：2点)
4 団体利用における満足度を上げるための取り組みを実施しており、サービス向上につなげている。							

	(3)その他創意工夫	①その他創意工夫の取組み	春から秋にかけてサブプール内で大量発生するユスリカへの対策として、側溝の清掃頻度を増加させ、ユスリカ対策薬剤の「ボンフラン」を使用した。結果、大きく成果を上げ利用者からお喜びいただけた。  (評価点:3点)	A	利用者からの不満を適切に吸い上げ、対処することにより利用者の満足度を向上させている。  (評価点:3点)	A	
	II 総括		3項目(12点満点)	A	3項目(12点満点)	A	

III 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する事項	(1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度	①事業収支計画、事業収支実績状況 〔指標〕H30収支計算書(プロポーザル) 収入:573,603千円、見込み:569,489千円 支出:573,603千円、見込み:574,292千円 納付金:0千円、見込み:0千円	事業収支及び見込み 《平成30年度:対プロポーザル比》 収入:99.2% 支出:100.1% 納付金:0%  (評価点:3点)	A	収支の見込みは平成28年度から引き続き赤字が続いている。収支計画の確実な遂行に向けた取組みが必要である。  (評価点:2点)	B	
	(2)安定的な運営が可能となる人的能力	①職員体制・配置	プロポーザルの提案通りに各部署で配置を行う 運営(事務室・トレーニング・プール・アイススケート・案内)常勤17名(非常勤66名) 設備管理 常勤8名 警備 常勤7名 清掃 常勤3名(非常勤10名)  (評価点:3点)	A	プロポーザルどおり適切な人員配置が行われているとともに、管理監督体制及び責任体制が明確にされている。  (評価点:①3点、②3点)	A	
		②管理監督体制・責任体制	全体責任 オージースポーツ 施設管理 関電ファシリティーズ※施設管理には、警備、清掃を含むスケートリンク設営管理 パティネレジャー  (評価点:3点)				
		③指導育成、研修体制	休館日を利用し、全体安全訓練を中心に研修、スキルアップを図っている。運営MT、訓練を通じて、運営上の課題を検討して、都度改善することができた。夏場のプール繁忙期前にはプール安全研修を行い、遊泳者の異変の第一発見者になるための監視方法の練習や溺者への対処法などを行った。  (評価点:3点)				従事者の指導育成については、研修の実施等適正に行われている。  (評価点:3点)
	(3)安定的な運営が可能となる財政的基盤	①法人等事業者の経営規模、事業規模、組織規模等の運営基盤	1 オージースポーツ経営概要 売上高 15,430百万円(平成29年度) フィットネスクラブ、テニスクール等各種スポーツ施設運営を行う直営フィットネスクラブ(コ・ス・パ)25店舗、24時間営業フィットネスクラブ(FITBASE24)6店舗、直営スイミング・カルチャースクール(SENRIITOよみうり)1店舗、直営テニスクラブ(コ・ス・パ)8舗、直営サッカースクール(コ・ス・パ)1施設、指定管理・運営受託施設 11施設 2 関電ファシリティーズ経営概要 売上高 32,733百万円(平成29年度) 施設維持の様々な要素を総合的に管理することで効率的な施設管理を全国規模で行う 3 パティネレジャー経営概要 売上高 2,815百万円(平成28年10月~29年9月) 全国的にスケートリンクの設計、設営、運営管理を行う  (評価点:3点)	A	構成企業を含め運営基盤は概ね安定している。  (評価点:3点)	A	
		②法人等事業者の財務状況	事業体各社前期の財務指標、損益実績を明示 代表企業OGS(平成29年度実績) 売上:15,430百万円 原価:12,714百万円 利益:2,715百万円 財務基盤の自己評価(H29年度実績) 総資:22,443百万円  (評価点:3点)				構成企業を含め財政基盤は概ね健全であると考ええる。  (評価点:3点)
	III 総括		3項目(12点満点)	A	3項目(12点満点)	A	